

臨時レポート

米石油掘削リグ稼働 2年ぶりの水準に

シェール増産 原油価格の上値は限定的か

- ▶ 米石油リグ稼働数は703基となり16週連続で増加。700基回復は2015年4月以来約2年ぶり。
- ▶ 石油輸出国機構（OPEC）盟主のサウジアラビアは、減産延長により原油相場の押し上げを目論む。
- ▶ 減産延長が合意されても、シェールオイル増産により原油価格の上値は限定的か。

米シェール企業の掘削動向を示す石油掘削装置（リグ）が増加しています。米石油サービス大手が発表した5月5日時点の米石油リグ稼働数は703基となり、16週連続で増加となりました。700基回復は2015年4月以来約2年ぶりです（図表1）。シェールオイルの増産は原油需給の悪化要因になるため、石油輸出国機構（OPEC）が2016年11月末に原油減産で合意して以降の原油相場の上昇基調にも変化が現れそうです。

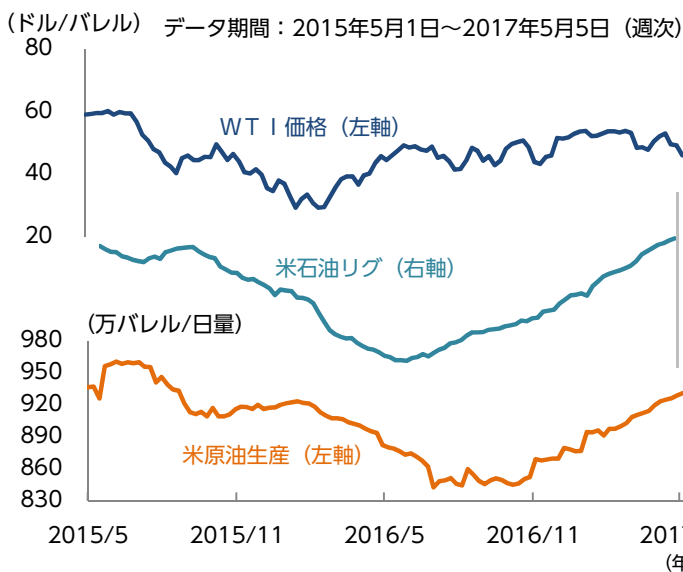
米エネルギー情報局（EIA）によると5月3日時点の米原油生産量は日量908万8,000バレルであり、2016年7月1日時点の842万バレルを底に増加基調が続いています。また5月5日時点の米原油在庫（戦略備蓄除く）も高水準となっています（図表2）。エクソンモービルなどの石油メジャーも本格的にシェール事業に取り組み始めたことや、トランプ大統領による石油ガス増産のための規制緩和などもシェールオイル増産に拍車をかけています。

EIAは2018年10～12月期には米原油生産は日量1,012万バレルまで増えると予想していますが、これは米国の増産分（日量約140万バレル増※）だけで昨年末に8年ぶりに合意したOPECの減産分を帳消しにする計算です。このような状況に、OPECの盟主であり、加盟国および非加盟国の減産合意を主導したサウジアラビアは、今年12月まで減産の延長をすることで、原油相場の押し上げを図りたい意向のようです。

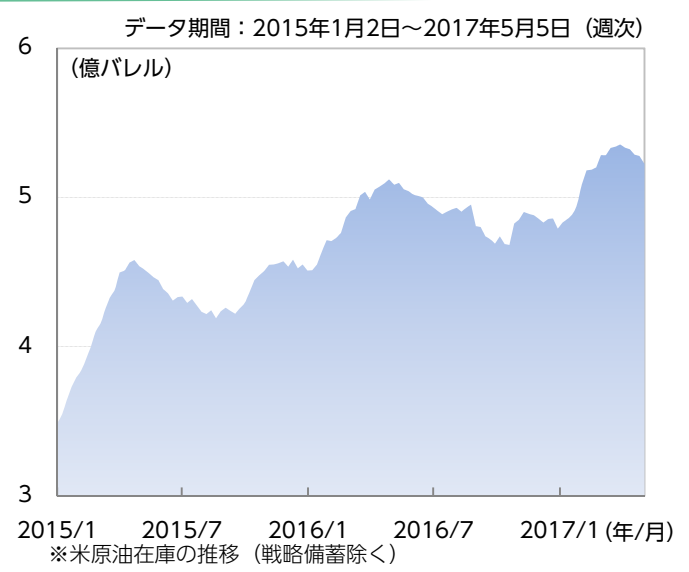
※2016年11月以降より

今後の原油相場の動向は、期限を迎える6月末以降もOPECが減産を延長出来るかどうかが焦点となりそうです。仮に加盟国やロシアなど非加盟の主要産油国の間で減産延長の合意が行われても、シェールオイルの増産により上値は限定的になると見込まれます。

図表1：米石油リグ稼働数は700基を回復



図表2：生産回復により米原油在庫が積みあがりつつある



出所）図表1はブルームバーグ、EIA、図表2はブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント